

## ソウシチョウ・ガビチヨウの取扱いについて

第1回特定外来生物等分類群専門家グループ会合（哺乳類・鳥類）において、委員から生態系に被害を及ぼすとの指摘があったソウシチョウ・ガビチヨウについて、被害に係るデータ等を整理した上で第2回会合において議論することとされたため、その議論に資するよう下記のとおり情報を整理した。

○原産地：東アジア、東南アジア

○定着実績：ガビチヨウ (*Garrulax canorus*)、カオグロガビチヨウ (*G. perspicillatus*) 及びソウシチョウ (*Leiothrix lutea*) の3種が、九州・四国・本州の落葉広葉樹林や常緑広葉樹林に定着している。

ソウシチョウやガビチヨウは江戸時代に飼育されていたことがあると考えられるが（ソウシチョウについては「古事類苑」の「相思鳥」の欄に簡単な記載がある）、輸入飼育の記録はほとんどなく、野生化を引き起こすほど一般的であったとは考えられない。ソウシチョウの最も早い野生化の記録は、1931年の神戸市再度山であるが、定着の多い九州でも1970年代以前のソウシチョウやガビチヨウの野生化の記録はないことから、今日の定着・拡大をもたらしたのは、江戸時代の飼育個体ではなく、最近輸入された個体に由来しているものと考えられる。

○被害の事例

- ・定着が確認されている九州・四国・本州のブナ林等の原生的森林において、ソウシチョウ、ガビチヨウが最優占種となり、群集構造が著しく変化している可能性があることから、生態系等に被害を及ぼすおそれが指摘されている。また、長期的には競争種や捕食される小動物等への直接の負の影響も推定される。（文献⑤）
- ・ハワイ諸島では、ガビチヨウとソウシチョウが侵入した地域では在来のハワイ固有鳥類が衰退していったというセンサスデータがある。（文献⑩）

○被害をもたらしている要因

（1）生物学的要因

- ・国内の落葉広葉樹林や常緑広葉樹林は下層植生が発達し、原産地の中国南部・東南アジアの山地林とよく似た生息環境を提供している。このため、比較的容易に定着し、繁殖力も高いために、急速に優占することが指摘されている。

（2）社会的要因

- ・姿が美しかったり、声がきれいであったりしたために、飼育された。また、伝統的な化粧製品であるウグイスの糞粉の代替品として本種の糞が用いられ、集団で飼育されている。
- ・里山の管理放棄によるヤブ化のため、低山帯に生息するガビチヨウ属に好適な環境を提供していることも考えられる。

### ○その他の関連情報

- ・ チメドリ科の約 250 種が、アジア、アフリカ、オーストラリア、1 種は北アメリカ西部に分布する。
- ・ 多数の種がいるが、渡りをする種は知られていない。翼は丸く、短いので、本来の地理的分散能力は低いと考えられる。
- ・ 森林の下層を主に利用すること、よくさえざることなどから、ウグイスやコルリなど微環境選択や生態の類似した数種の在来種への競争的排除や生息密度低下、あるいは共通して捕食する小動物の密度低下などの影響があることが指摘されている。
- ・ よくさえざることと、下層植生を利用することから、プレイバックと霞網を利用して効率よく捕獲できると考えられる。
- ・ 近年、ソウシチョウとガビチョウの輸入は、輸出国の中国の政策および日本における需要等の要因からほぼなくなっている。飼育が容易でペットとしても魅力があることから広く飼育されている可能性があるが、飼育・流通の実態は把握されていない。

### ○主な参考文献

- ① Eguchi, K. and Amano, H. E. (2004) Invasive birds in Japan, *Global Environmental Research*, 8:23-28.
- ② Eguchi, K. and Amano, H. E. (2004) Spread of exotic birds in Japan, *Ornithological Science*, 3:3-12.
- ③ Kawakami, K. and Yamaguchi Y. (2004) The spread of the introduced Melodious Laughing Thrush *Garrulax canorus* in Japan. *Ornithological Science*, 3:13-22.
- ④ Tojo, H and Nakamura H. (2004) Breeding density of exotic Red-billed Leiothrix and native bird species on Mt. Tsukuba, central Japan. *Ornithological Science*, 3:23-32
- ⑤ 江口和洋・天野一葉 (2000) 移入鳥類の諸問題. 保全生態学研究5 : 131-148.
- ⑥ 江口和洋 (2002) 移入鳥類による鳥類群集の攪乱. 「こらからの鳥類学」(山岸哲・樋口広芳編)、裳華房
- ⑦ 佐藤重穂 (2000) 九州におけるガビチョウ *Garrulax canorus* の野生化. *日本鳥学会誌*48 : 233-234.
- ⑧ 中村一恵・室伏友三・足立睦子・初瀬川孝夫 (1993) 神奈川県におけるカオグロガビチョウの野生化について. *神奈川自然誌資料*14 : 37-31.
- ⑨ C. M. ペリンズ・A. L. A. ミドルトン編 (1986) 動物大百科9 鳥類III, 平凡社, 179pp.
- ⑩ Ornithological Society of Japan (2000) Check-list of Japanese Birds Sixth Revised Edition, 346pp.
- ⑪ Mountainspring, S and Scott, J. M. (1985) Interspecific competition among Hawaiian forest birds, *Ecological Monograph*, 55: 219-239.